

平成15年12月4日
北海道ガス株式会社

札幌－小樽間、天然ガスパイプライン完成

苫小牧産の天然ガスを小樽地区に効率よく輸送！

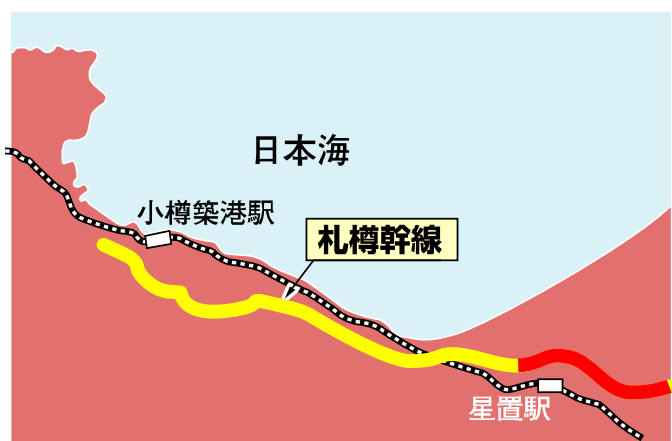
このたび、札幌と小樽を結ぶ天然ガスパイプライン「札幌幹線」が完成いたしましたので、お知らせいたします。

北ガスでは平成8年より、都市ガスの原料を石油系の原料から「天然ガス」へ切り換える作業を進めております。天然ガスは、苫小牧市勇払地区で産出される天然ガスをパイプラインにて輸送し、札幌圏に供給しています。

札幌幹線は、平成17年に予定している小樽地区の天然ガス転換のため、平成12年4月から建設に着手。このほど、札幌市手稲区星置を始点として小樽市築港までの約21kmにわたる工事を完了いたしました。

これにより、小樽市と苫小牧がパイプラインでつながり、苫小牧市勇払地区で産出する「天然ガス」を小樽まで、輸送ロスなく最も効率的に供給することが可能となりました。

今後、ガバナステーション（ガスの圧力をお客さまがご使用になれる圧力に調整する施設）の建設を行い、天然ガス供給のインフラ準備を完了させ、平成17年に小樽地区の天然ガス転換作業を実施する予定です。



<資料>

■札幌～小樽間のパイプライン建設について

<札幌幹線概要>

- ①総延長約 21 k m（手稲区星置 1-4～小樽市築港）
- ②口径：300mm
- ③圧力：中圧 A（0.99M p a）
- ④工期：平成 12 年 4 月着工、平成 15 年 11 月 27 日完成。
ガバナーステーション(GS)：H 1 6 年度完成
- ⑤総投資額：パイプライン 20 億、その他 GS 等の附帯設備を入れて約 25 億円程度。

■小樽地区天然ガス転換作業について

- ①作業時期：平成 17 年 6 月～平成 17 年 12 月
- ②お客さま数：約 3 万 8 千件
- ③天然ガス転換のメリット：

小樽地区で供給している都市ガスは、4C（15.069MJ/m³）というガス種で、天然ガス 13A（46.046MJ/m³）に比べ、約 1/3 程度の熱量でした。天然ガスへの転換が完了いたしますと、燃やしても環境に優しいだけでなく、ガス工事費の低減やガス機器の選択肢拡大につながるほか、燃料電池などの最先端技術の導入も可能となります。

■天然ガスについて

天然ガスは、硫黄などの不純物を含まず、燃焼しても大気を汚す硫黄酸化物（SO_x）

をまったく発生させず、窒素酸化物（NO_x）や地球温暖化の原因となる二酸化炭素（C

O₂）の発生量も少量です。また人体に有害な一酸化炭素（CO）も一切含まれていない、安全でクリーンなエネルギーです。

優れた環境特性とともに埋蔵量も豊富であることから、来るべき水素エネルギー時代への掛け橋となるエネルギーとして注目を集めています。

■天然ガス転換作業について

平成 8 年札幌市厚別区から、天然ガスの導入を開始いたしました。平成 17 年までに道央圏（札幌市、千歳市、恵庭市、石狩市、小樽市）を終え、平成 18 年には函館地区を天然ガスに切り替える予定で転換作業を進めております。

平成 15 年 11 月末現在、当社の都市ガスのお客さまのうち、約 36 万 7 千件（お客さま件数全体の約 64%）が、すでに天然ガスを使用しています。

■パイプライン輸送のメリット

地中にガス管を敷設しておこなうパイプライン輸送は、井戸元から直接天然ガスを輸送

できるため、最も安全でロスのない効率の良い輸送方法です。タンクローリー輸送のように交通渋滞や排ガス等による環境問題も発生させません。